

実態把握

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境、本人や周囲のニーズ等について多面的に情報収集

収集した情報を  
舎生会活動中の困難の視点から整理



気になる主な姿

「気になる主な姿」(課題)

教師が感じる困難さではなく、子ども本人が困難さを感じている姿を挙げていくこと、子どもの行動とその行動の解釈(背景となる要因)を分けて整理することなどに留意しながら、児童生徒の学習上・生活上の困難な姿を「気になる主な姿」として、**舎生会活動**での具体的なエピソードを複数挙げます。

背景要因

「背景となる要因」  
なぜそのような「気になる姿」になるのかという、背景となる要因を挙げていきます。一つの気になる姿から複数の要因が考えられる場合があります。



目指す主体的な姿(行動)について

課題の背景となる要因の関連を整理するとともに、必要性や実現性、適時性、配慮事項などの視点を加味し、一人一人の子どもについて**目指す主体的な姿の図※寄宿舎の実践・図4**から**目指す主体的な姿(行動)**について特定する



選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

指導や工夫 具体的な	<p>具体的な指導内容や工夫 選定された項目が反映されているかを確認しながら、目標達成に向けて「何ができるようになればよいのか」「どのような内容が必要か」について考え、できるだけ具体的に記入します。</p>		
	場面 活動	<p>「活動場面」 「具体的な指導内容を指導するのはどの場面か」「どのような状況のときに指導をするか」などを想定し、<b>主体性を導き出すための指導や工夫※寄宿舎の実践・図5</b>を元に具体的に記入します。</p>	
結果	達成・ほぼ達成・未達成	達成・ほぼ達成・未達成	達成・ほぼ達成・未達成
	<p>「結果」 各項目の「具体的な指導内容」に基づいて指導した結果を、どのような手立てがあればできたのか等も含めて簡潔に記します。(例：〇〇の手立てがあれば達成等)</p>		

評価	<p>【主体的な姿(行動)についての評価】</p>
	<p>【困難な姿の変容】</p>
	<p>「主体的な姿についての評価」 「困難な姿の変容」 結果を根拠にして、主体的な姿についての評価をします。目標を達成していても、「困難な姿の変容」(「気になる主な姿」の変容)についても記入</p>

〈参考資料〉 岡山大学教育学部附属特別支援学校 発達指導室 リーフレット

「知的障害特別支援学校における チームで取り組む自立活動の指導」(2022)